

2月某日S棋会席上。

課題作5問を鼻歌まじりにすいすい解いてしまったM島氏の隣で、  
彼にヒントをもらいながら全く解けず唸っているN村氏が、  
バッグの中から問題を取り出し、M島氏に見せている。

N村「冬眠蛙氏の新作なんだけど、解いてみませんか？」

S内、M角といった強豪も盤の傍に集まってきた。

S内「彼の作品はいつもすごいばかりばからなあ・・・」

しばらく盤を睨む面々。やがてM島が手を動かした。

M島「56金、同玉、59香で、取れば詰みだから46玉と逃げる。  
この筋だと思うんですが・・・。」

そこに、やっと課題作を詰まし終えたN村が割って入った。

N村「ふんふん。ここは55馬の1手だよ！」

S内「何で？」

N村「飛と香の焦点じゃないか。まず捨ててから考えるんだ。」

S内「意味は？同飛と取られますけど」

N村「意味って・・・。。。。こう捨てれば後で5筋に金を打つと  
同香とできないでしょ。形からこうなんだよ。」

・・・一同、しばらく55馬、同飛の局面を睨むが、筋に入らない。  
やがて誰かが36飛、47玉、34飛と動かした。

N村「そんな芋筋のはずがないでしょう。

・・・待てよ。そういえばヒントに『どちらも駒を取る』とか  
書いてあったな。」

M島「それはすごいヒントですね。」

しばらくこの芋筋も追及されたが、まるで詰まない。

N村「・・・詰まん。55馬には55同香と取ることにしませんか？」

一同、冷たい視線をN村に浴びせ、局面を初形に戻す。  
暫くの後、いつもの通り、M島が真っ先に声を上げた。

M島「見えました。

56金、同玉、59香、46玉、24馬、37玉、46馬！、同玉、  
36飛、47玉、46金、同桂、31飛成！、25飛、39桂まで  
15手詰めですね。」

S内「なるほど！」

N村「これは見事だね。24馬～46馬の邪魔駒消去とは！。  
なんで順位戦に使わないのかな。」

S内「55馬の一手と言う話はどこへいったのでしょうか？」

N村「何の話？誰がそんな事を言ったのかな？」

M島「31桂がいかに43飛を防ぐ必要駒に見えるのが  
うまいですね。33馬を消去するのに55馬でなく  
24馬からでないといけないのも巧みです。  
・・・ん？55馬じゃだめなのかな??」

一同、55馬を並べてみるが詰んでいる。

じゃあ24馬に35合か？と調べ始めたが、そこで、それまで  
冷静にメンバーを観察していたM角氏が口を開いた。

M角「そもそも46馬に38玉とされたらどうするんですか？」

一同「うげっ！」

M島「ということは、作意は24馬でなく55馬ですね。

56金、同玉、59香、46玉、55馬、同飛、36飛、47玉、  
46金、同桂、31飛成！、25飛、39桂まで13手詰。」

N村「やっぱりね。僕が55馬に決まっていると言った通り  
だったね。はっはっは。」

一同、呆れた視線をN村に浴びせたのは言うまでもない。

=====

以上、楽しませてもらいました（笑）。

これは全くの個人的見解ですが、上記の通り、55 が香と飛の焦点で 55 馬と捨てたくなる形なので、逆にそうでなく 24 馬から純粹に邪魔駒消去する形なら更に味が良かっただろうなぁと思います。しかし、良く見ると 46 馬は同桂でもまるでダメですね（笑）。

とは言え、意外性たっぷりの好作でした。